

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	田中 敦子 中村 敏恵
学力向上推進員	教諭(教務課長)	一宮 美雪
委員	教諭(小・中学部長) 教諭(高等部長) 教諭(支援課長)	森本 春輝 大谷 教朗 市川 貴雄

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(小・中学部) 幼児児童生徒の状況		
よさ	小・中学部ともに、学習や作業など、各個人に応じたスケジュールや手順書を手がかりに落ち着いて活動に参加し取り組むことができている。全校集会や全校活動において、上学年の児童生徒が見本を示したり、教えたりする場面が増え、お互いが意識し合い、良い人間関係の形成ができています。少人数で行う授業の良さを活かし、自立に向けた学習の機会を多く持つことができている。	課題 少人数の良さを活かした授業を行い、個別の指導計画において目標達成となる目標は多いが、場面や人など環境が変わるとできないケースもあったため、引き続き場面や人を変えて指導を行っていく必要がある。また、家庭や施設等での般化の達成は依然難しい状況である。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
・般化を意識した目標設定がされた授業の中で、学習したことが人的、物的環境の変化があった場面においても活かすことができる。	・個別の指導計画において、般化場面の目標の評価が「達成」または「ほぼ達成」となる割合が学部全体で80%以上となる。	【前期】 小・中学部全体の設定目標数14個で「達成」「ほぼ達成」となった達成目標数は13個であった。(達成率92%) 【後期】 小・中学部全体の設定目標数16個で「達成」「ほぼ達成」となった達成目標数は14個であった。(達成率87%)
		評価 B
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
・保護者懇談等で保護者や本人の将来に向けてのニーズを聞き取り、個別の教育支援計画(支援計画表)に反映させる。 ・保護者のニーズに基づいた個別の指導計画の学期目標において、般化を意識した目標を設定し、学部で共有する。 ・個別の指導計画に関するケース会で目標達成のための手立ての確認をし、共有する。 ・指導の経過について、進捗状況等を見直しケース会等で報告し、指導について検討したり共通理解を図ったりする。 ・設定した目標に対する評価を行う。	・保護者のニーズに基づいた個別の指導計画の学期目標において、般化を意識した目標を1個以上設定する。 ・個別の指導計画に関するケース会及び見直しケース会を年間5回以上行う。	・懇談等で聞き取った保護者のニーズに基づいて、般化を見据えた目標を1個～2個設定することができた。 ・計画通りに前期、後期においてケース会及び見直しケース会を12回実施できた。
* 中間期の見直し 前期の状況を各部会で共有し、継続して実施する。		
達成状況を踏まえた改善事項		
小・中学部ともに、個々の児童生徒の実態に応じて、般化を意識した目標設定を行い、前後期において目標達成率も高かった。般化場面として、学校で別授業への般化場面が多く、家庭、施設等での般化場面は少なかった。学校での学習や指導が学校以外の場面で活かされるよう家庭や施設等での般化は重要であるが、お互いが共通理解をし、指導への協力を得ることが難しかった。また、協力は得られたものの学校と家庭との一貫した指導の難しさがあるという意見も上がった。改善事項として、保護者のニーズを聞き取り、学校での般化場面を増やし、成功例を伝え、家庭でも使用可能な教材の提供等を行っていくことや、家庭や施設等での般化場面を増やすための具体案をケース会や学部会を通じて話し合っていくことに取り組んでいきたい。		